第６８回高体連オホーツク支部弓道競技選手権大会

兼　第７１回北海道高等学校弓道競技選手権大会オホーツク支部予選会

開　催　要　項

１　主　　催　　北海道高等学校体育連盟オホーツク支部

２　後　　援　　北見地区弓道連盟　北見弓道会

３　主　　管　　北海道高等学校体育連盟オホーツク支部弓道専門部

４　当 番 校　　北海道北見柏陽高等学校

５　会　　場　　北見市武道館弓道場（住所：北海道北見市東陵町２７番地
　　ＴＥＬ：0157－57－3842）

６　大会期日　　令和７年５月２３日（金）～２４日（土）　２日間

７　大会日程　　５月２２日（木）　16:10　監督会議(北見市武道館　研修室)

５月２３日（金）　8:00　開　場
8:30　集　合
9:00　開会式・矢渡し
9:40　競技開始
①女子個人戦　１次予選　各４射×２立 － 立射
②男子個人戦　１次予選　各４射×２立 － 立射
③団体戦　１次予選１立目　女→男の順で各４射 － 坐射
17:30　１日目終了予定

５月２４日（土）　8:00　開　場
8:30　集　合
9:00　競技開始
④個人戦　準 決 勝　女→男の順で各４射 － 立射
⑤個人戦　決　勝　女→男の順で射詰競射　坐射
⑥団体戦　１次予選２立目女→男の順で各４射 － 坐射
⑦団体戦　２次予選　女→男の順で各４射 － 坐射
⑧決勝リーグ抽選
⑨団体戦　決勝リーグ戦　－ 坐射
15:00　競技終了予定・表彰式
16:00　全日程終了予定

８　競技規則
⑴　役　員　　当番校教職員　各校弓道部顧問（各地区弓道会員が入ることもある）
⑵　審　判　　①　審判長　高体連オホーツク支部弓道専門委員　敦　賀　和　芳
②　審判団　各校弓道部顧問
⑶　原則として全国高等学校体育連盟弓道競技規則、審判部細則、北海道高等学校弓道大会競技規則、および申し合わせ事項を参考とする。

9　競技参加人数

⑴　個人戦　男女それぞれ１校８名まで出場できる。ただし、８名の中には団体戦出場者を含む。介添生徒は１名とする。

また、３年生に限り出場人数に制限を設けず、出場して良いものとする。勝ち上がった場合には、全道大会への出場権を与える。ただし、８名を超えた選手の団体戦への出場は認めない。立順は、その学校の１～８番に続けて、９番以降が並ぶこととする。

⑵　団体戦　男女それぞれ１校５名で１チーム編成とする。補欠は３名とする。また、３名以上であればチームとして認める。ただし、１校１チームで男女混合は認めない。介添生徒は１名とする。

10　参加資格

⑴　北海道高等学校体育連盟に加盟する高等学校の生徒で北海道高等学校体育連盟弓道専門部を通して（公財）全国高等学校体育連盟弓道専門部に登録している生徒であること。

⑵　「高体連主催大会参加災害補償制度」に加入した者、または加入の意思のある者。

⑶　平成１９年４月２日以降に生まれた者であること。ただし、同一学年での出場は１回限りである。

⑷　転校後６ヶ月未満の者は出場できない。ただし、一家転住の者である場合はその限りではない。

⑸　全日制、定時制の混成は認めない。

⑹　学校長の出場許可を得た生徒であること。（校長印を申込書に押印すること）

⑺　統合が決定している高校の合同チームを認める。

11　引率責任者及び監督

引率責任者は当該校の教員で、監督は学校長の認めた教職員とする。ただし､監督については種目の特殊性を考慮し、申出により別途協議する。なお、引率責任者と監督が同一者の場合は教員とする。

校長から引率を委嘱された「部活動指導員」(学校教育法施行規則第７８条の二 に示された者)も可とする。

12　参加申し込み

⑴　個人情報について

大会参加に際して提供される個人情報は、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはない。

⑵　申込用紙のメール送信および当日持参もしくは郵送お願いします。

①　メールアドレス　1403@hokkaido-c.ed.jp（北海道スクールネット）

なお、開催要項・申込用紙は北見柏陽高校 HP よりダウンロードいただけます。

②　申込期日

メール送信　令和７年５月７日（水）　必着

③　送信するもの

ア　申込用紙（エクセル）

イ　職印を押した申込用紙の原本（ＰＤＦまたは写真）

申込用紙をメール送信する際は、申込用紙（エクセル）と職印を押した原本をＰＤＦまたは写真を添付の上一緒に送信してください。なお、メールで送信した内容と職印を押した原本は同じものかどうか確認をしてください。

④　送付もしくは持参するもの　職印を押した申込用紙の原本

ア　大会当日に持参する場合

監督会議の時に、当番校へ提出してください。

イ　事前に送付する場合

送付付先　〒０９０－８５３３　北海道北見市柏陽町５７６番地

北海道北見柏陽高等学校　高体連弓道大会事務局　宛（担当者：石丸　雅裕）

郵　　送　令和７年　５月　９日(金)　必着

13　参加料

⑴出場選手１名につき１０００円とする。

⑵参加料を次の口座に入金する。　　令和７年５月８日（木）まで

金融機関　　振 込 先　銀 行 名　遠軽信用金庫　　東 支店（店番号０１８）

口座番号　普通預金　００８８６５５

口 座 名　北海道北見柏陽高等学校　校長　後藤　禎和（ごとう　よしかず）

住所は上記、学校電話：０１５７－２４－５１０７　　FAX：０１５７－２４－５１６３

14　立順抽選

５月９日（金）に北見柏陽高等学校において大会委員長（本校校長）、本校高体連理事、支部弓道専門委員、本校大会事務局員立ち会いのもとで厳正に抽選し、抽選結果は参加申込に使用したメールアドレス宛に送信して報告します。

15　宿泊・弁当

当番校から宿泊・弁当に関する斡旋は一切行いませんので、各校で手配してください。また宿泊する場合は、監督会議において、宿泊施設名と連絡先を当番校までお知らせください。

16　表彰

⑴　団体競技　男女共第３位まで賞状を授与し、表彰します。

⑵　個人競技　男子は第７位まで、女子は第６位まで賞状を授与し、表彰します。

17　その他

⑴　高体連加盟登録費納入のお願い

男女両方の部員がいる学校は４，０００円を、男女片方の部員だけがいる学校は２，０００円を、監督会議後にオホーツク支部弓道専門委員に納入してください。　※事前に専門委員より依頼します。

⑵　練習会場のお知らせ

５月２２日（木）１２：００から１６：００までとし、各学校に時間を割り振り、北見武道館弓道場を開放します（各学校１～１．５時間程度）。練習会場は１２人立ちです。

各高校監督または引率責任者が付き添うようお願いします。

⑶　本大会に関する問い合わせは、北見柏陽高校　石丸　雅裕　まで。（Email 1403@hokkaido-c.ed.jp）

（学校電話　0157-24-5107　　FAX　0157-24-5163）

18　弓道競技

⑴　種　目　　近的競技

⑵　種　別　　女子の部　　男子の部

⑶　種　類　　（ア）　団体戦（５人立）　　（イ）　個人戦（個人競技ともいう）

⑷　的　　直径３６cmの霞的を使用し、射距離は２８ｍとする。

⑸　支部大会と全道大会との関係

①　団体の部は以下のとおりとする。（別表参照）　　※別表は、後日専門委員より送付されます。

（ア）　過去３ヶ年間の各支部参加校数による基準枠　２１チーム

（イ）　前回優勝支部枠（今年度は、男子－札幌支部、女子－札幌支部）

（ウ）　基準枠チーム数が前年を下回った支部

ただし、該当する支部が３支部を超える場合、「四捨」になったが、より「五入」に近い２支部にそれぞれ１チーム枠を与える。

（エ）　（イ）（ウ）によっても「＋α枠」が３チームに満たない場合は、「四捨」になった支部の中から、最も「五入」に近い１支部に１チーム枠を与える。

（イ）（ウ）（エ）により３チーム

※ただし、１支部から基準枠出場数は最大６チームとする。最大出場数は８チームのため、それを超えた場合のチーム数も③により割り当てることとする。

合計２５チーム（今年度オホーツク支部は 男子３チーム、女子３チームが全道に出場できる）

②　個人の部は新基準に従い、オホーツク支部は男子７名、女子６名とする。

⑹　競技方法

①　役　員　　当番校教職員、各校弓道部顧問及び各地区弓道会

②　審　判　　（ア）　審判長　　支部弓道専門委員

　　（イ）　審判団　　各校弓道部顧問

③　行　射　　坐射とする。ただし、個人戦の１次予選・準決勝は立射とする。

④　団体戦

（ア）　団体戦へ出場する選手は原則として５名でチームを編成するが、３名以上であればチームとして認める。ただし、１校１チームで、男女混合は認めない。

（イ）　時間制限

㋐　８分以内とする。（弦切れ、その他の事故が生じても時間の延長は認めない）

㋑　７分３０秒で「３０秒前」の合図がある。

㋒　８分以内に「離れない矢」は無効とする。

※制限時間の「３０秒前」でベル（ブザー）を一度振鈴させ、「制限時間」で二度繰り返して振鈴させる。監督会議および開会式などで、監督・選手へ周知する。

※８分のベル（ブザー）は、「制限時間」となったことを知らせるものであるから、振鈴してから「離れた矢」は無効となる。

（ウ）　１次予選

１次予選は、参加申込書の登録順に５名が出場し、一人８射、計４０射を行う。下位同中の場合は、同中校すべてを通過とする。

（エ）　２次予選

２次予選は、予選立順の早いチームから一人４射、計２０射を行い、１次予選の的中数と合わせ、合計６０射の総的中数上位４チームが決勝戦に進出する。（下位同中の場合は、一人１射ずつの競射を行い、進出チームを決定する。）

（オ）　決勝戦

決勝戦は、上位４チームによるリーグ戦を実施する。一人４射、計２０射し、同中の場合は一人１射ずつの競射を行い、勝敗を決定する。

１次予選・２次予選の総的中数順に、組合せ抽選を行う。同中の場合は立順の順とする。

なお、決勝戦の試合の順序は次の通りとする。

女子第１試合・女子第２試合	**→**	**男子第１試合・男子第２試合**
女子第３試合・女子第４試合	**→**	**男子第３試合・男子第４試合**
女子第５試合・女子第６試合	**→**	**男子第５試合・男子第６試合**

また、決勝戦の順位決定は次の通りとする。

㋐　勝ち点の多い順とする

㋑　勝ち点が同点の場合、リーグ戦の合計的中数による。

㋒　㋑によっても決しない場合は、対戦成績による。

㋓　㋒によっても決しない場合は、１人１射の一本競射によって、的中数の多い方を勝ちとする。

㋔　同率３位の場合、３・４位決定戦を行う。

（カ）　団体戦の同中競射は１矢ずつであっても５射をもって１区切りとする。時間制限はないが、故意に時間を延ばしていると判断される場合は進行係または審判長より注意を受けることがある。

（キ）　競技規則の参考

㋐　原則として全国高等学校体育連盟弓道競技規則、審判部細則、北海道高等学校弓道大会競技規則、および申し合わせ事項を参考とする。

㋑　前立の者より早く離れた矢は無効とする。また、「３０秒前」の合図後における前立の者より早く離れた矢も無効とする。

㋒　参加資格のない者がチームの中にいた場合は、チームの出場を停止することもある。また、失格とすることもある。

㋓　選手交替の承認されない者がチームの中にいた場合は、停止または失格とする。

㋔　定められた「控え席」に選手が着いていない場合は、欠員のまま行射を行う。その選手は出場放棄とみなす。

㋕　矢番え後の筈こぼれ、また矢を落とした矢こぼれの場合は「失」とする。

㋖　監督は、あたり・はずれの異議の申し立てをすることが出来る。異議の申し立ては矢を抜き取る前にすること。（監督または介添の生徒は監督章・介添章を付け、それ以外の者の異議申し立ては認めない。）

㋗　制限時間の８分以内とは、弦切れのための弦の張り替え時間も含む。従って、弦切れの際は速やかに交換できるようにしておくこと。

⑤　個人戦

（ア）　１次予選

㋐　１校８名まで出場できる。ただし、８名の中には団体戦出場者を含む。
また、３年生に限り出場人数に制限を設けず、出場して良いものとする。

㋑　各自四ツ矢２立、８射を行い、男女共５中以上が予選通過者とし、準決勝へ進むことができる。

㋒　準決勝

(A)各自四ツ矢１立、４射を行い、的中数上位の女子６名、男子７名が決勝に進出する。
下位同中の場合は、全員決勝に進出する。

㋓　決勝

(A)射詰で順位を決定する。（準決勝の的中数によって順位を決定することはしない）

(B)最上位及び全道大会出場者を決定する場合に限り射詰競射とし、その他は遠近競射で順位を決定する。

(C)１矢ずつの矢返しはしないので四ツ矢で臨むこと。

⑥　入場と退場

（ア）　「お支度」または「ご用意」の指示後は直ちに点呼と弓具の点検を受ける。

（イ）　「お控え」の指示は進行係の指導により集合する。その際の遅刻者については「出場放棄」とみなし、出場することができない。　※本大会は第三控が点呼場所となります。

（ウ）　進行係の「起立」の命令で立ち、「始め」の合図で一斉に「揖(ゆう)」をして射位へ進む。

（エ）　射場にて、選手は私語を慎み、また奇声を発してはならない。また観覧している者や監督席から声による指示をしてはならない。野次ってはならない。

（オ）　「矢こぼれ」の矢は失効とするが、前立の者の後の射手の弓矢がふれて矢こぼれが生じた場合は、やり直しを認めることがある。その場合の前立や後の射手の処置については失格とすることもあるが、審判団の判断に委ねる。

（カ）　射場に入場する際は軽く揖をする。射位から退場に向かう際は必要としない。

⑦　矢返しは四ツ矢が終わるごとに行い、１本ごとの矢返しは認めない。各自四ツ矢と損傷の際の替え矢（２本）を準備すること。

⑧　選手の交替

（ア）　団体戦のみ認める。補欠は３名までとする。

（イ）　選手の交代は５回まで認める。従って、交代した選手の再出場はできる。ただし、点呼場所に入るまでに届け出ること。

（ウ）　補欠選手のみ交替させることができ、補欠選手は抜けた選手の後に入る。

（エ）　いったん外された選手は、補欠選手であるので再度交替するときは、外される前の立ち順にこだわらず、どの選手とでも交替できる。

（オ）　交替の時期は監督会議または自校の競技出場３０分前とし、所定の選手交替用紙に記入し、監督を通じて本部に届け出る。ただし、団体戦１次予選１立目の交替は競技１日目の顧問会議（打合せ）の時まで、団体戦１次予選２立目の交替は個人戦準決勝が始まる前までとする。ただし、決勝リーグ戦進出校決定のための同中競射においては交代を認めない。

（オ）　団体戦の交代回数は５回までとする。

⑨　競技服装

（ア）弓道衣・袴・足袋は単色無地とする。ただし、各学校で統一する事。

（イ）弓道衣のアンダーシャツは白・黒・紺の単色無地とし、それ以外の色を使用する場合は各学校で統一

すること。襟付き・ハイネックは不可とする。

（ウ）　弓道衣に校名・校章・氏名および各都道府県のシンボルマークやワッペンなどを付ける場合は、片袖に限る。ただし、大きさは縦横１０ｃｍ以内にすること。袴へ刺繍等により校名・氏名を入れる場合は右腰後にする。

（エ）　鉢巻を使用する場合は、無地で長さは肩までとする。なお、校名・校章・氏名・番号に限り入れてもよいが、場所は鉢巻の端とする。頭髪が弦に当たる恐れがある時は、鉢巻を強制する場合がある。

（オ）　胸当は無地とし校名・校章・その他を入れてはならない。男子の胸当の着用は認めないが、道着の下に装着する事までは咎めない。

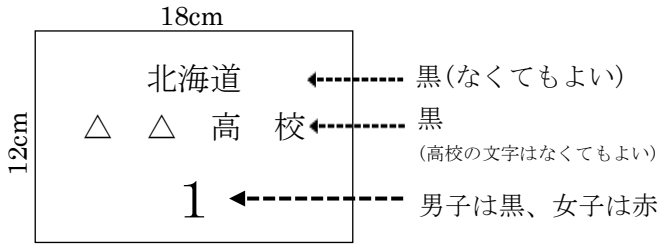
（カ）　リボン・ピアス等の装身具類は着用しないこと。

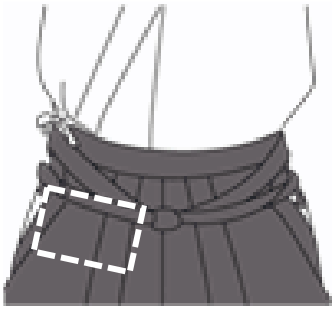
（キ）　ゼッケンを下記の要領で作成し、右腰前に付けること。ただし、ゼッケンの左端が体の中央になるようにする。

(A)　横１８cm、縦１２cm の白の布または紙を使用する。（ゼッケンをケースに入れることは可）「北海道」学校名および男子の選手番号は黒、女子の選手番号は赤で記入する。

(B)　選手番号はプログラムに登録された番号（申込時の番号）を表示する。

(C)　ゼッケンの位置は右図点線の部分とする。





【注意事項】

1　前後の選手に対して、弓などで教示したり助言したりしないこと。
2　会場内で不必要な声を発しないこと。
3　矢を落とし「失」となった矢は、他の選手の妨げとならないように拾い、自分の体と平行に右前に置くこと。それを進行係が引き取り監督に渡すこと。なお、４射目の場合は選手が持って退場する。
4　競技進行中における行射中止の指示は、的前における赤旗の掲示と射場内では進行係がその指示を行うので、直ちに行射を中止すること。再開指示は赤旗を撤去し、係が指示する。（この間は計時しない。）
5　個人戦・団体戦の各予選終了直後、競射がある場合は、会場の放送に注意し、指示がある場合は、速やかに四ツ矢を持参して招集場所にて待機していること。
6　同中競射及び射詰の時は、１矢終わるごとに自分の席に戻ること。残りの矢は、自分の席に置いて行射すること。
7　個人競技決勝の射詰・遠近法による競射の退場は進行係に従うこと。
8　団体２次予選にて、下位同中校が出た場合、女子・男子の競技が終わり次第、一本競射を行うので競技進行に注目し、招集に遅れないようにすること。
9　射場内では、執弓の姿勢を保つこと。また、体配を乱さないようにすること。
10　観戦する際は静粛な態度であること。
11　要項に定められた服装でも、チーム内では統一すること。

【監督主将会議の申し合わせ事項について】

※以下の項目は今後、専門委員と協議し監督主将会議の議題とし、その席で確認、修正、あるいは削除された上で「申し合わせ事項」とする。

1　全道大会出場校が辞退しても、次点繰上げは行わない。
2　行射する際には、取り矢を行わなくてもよいこととする。
3　弓に故意の照準をつけているものは覆わせる。
4　矢のかみ直しは、認めない。
5　矢番え後の矢こぼれは、失権とする。矢番え後とは、矢をつがえた後に右手を右腰に添えたときとする。右手を腰に添えなかった場合は、それに準じた時点とする
6　的に中ってはね返った矢は、的中とする。（ただし、仮設安土道場のみ）
7　皆中の拍手、「よし」のかけ声は認める。
8　弦切れの場合の張り替えは原則として顧問・監督が行うが、できない場合は進行係が行う。ただし、これによって制限時間が超過することがあっても抗議は認めない。
9　女子のリボン使用は認めない。また、ゴム輪を使用する場合は派手なものをさける。
10　監督会議での選手交替は行えるが、立ち順の変更（例．１的→３的、３的→１的）は認めない。
11　２日目団体の選手交替は個人戦準決勝の前に行う。
12　団体戦において一本競射の時に、選手交替は認めない。
13　替え矢は持参することが望ましいが、支部大会では強制しない。（ただし、全道大会では持参しないと、失格となりうる。）
14　当番校の個人戦への出場人数は、８名の他にもう８名までの出場を認め、全道大会への出場権を与える。ただし、その８名の団体戦への出場は認めない。また、立順は各参加校が終わった一番最後とする。当番校の個人戦参加者は、１～８番・９～１６番を基本とし、それでも出場できない３年生にのみ出場を認める。
15　筆粉、ぎり粉等は射場内でつけない。
16　監督が審判等で介添に入れない場合、介添章をつけた者が代理として介添に入ることができる。
　よって、弦切れの弦の張り替え、的中の異議申し立ても認める。
17　伝統的な押手補助具や傷部保護のための包帯、テーピングを除き押手にはその他の物を付けてはならない。
　＊伝統的な押手補助具としては、押手弾(拇指、人差指の２本指と拇指のみの１本指)がある。
　＊キネシオテープについては、テーピングとみなし使用を認める。
　＊サポーターの使用は、手首以外の使用について認める。色は白・黒・紺・ベージュの単色無地とする。
　＊傷病や障害等のため、包帯やテーピングで手首を固定する必要がある場合は、監督が事前に大会本部へ申し出て使用させること。
　＊けがで、押手に包帯、テーピング等をする場合については、本部に申請して許可を得ること。
18　弾の紐は危険防止のため小さく結び、止め具の使用は禁止する。
19　留学生の参加は認めるが、個人戦のみとし、事前に監督会議で了承を得ることとする。その選手が入賞しても全道への参加は認めない。その場合があれば、次点繰り上げで全道出場選手を決める。